

かずさの博物誌

チュウシヤクシギ

～カニ捕りの名人～

文・写真／成田篤彦

5月の中旬、小櫃川河口干潟にいった。ヨシ原を通って干潟へ向かう途中のことであった。「ホイ、ピピピ、ピピ」と危険を仲間知らせているような少しかん高い鳴き声が川上から聞こえた。見上げると1羽のチュウシヤクシギが頭上を海の方へ飛んでいった。干潟に着くと遠く離れた波打ち際に10数羽のチュウシヤクシギが群れていた。胸を張り、長く湾曲したくちばしをたれさげながら、陽炎の中をゆったりと動いていた。しかし、近づいてみると意外にせかせか動き回り、なかには眼を閉じくちばしを斜めに穴に入れ、中を探っているものやくちばしの根元



©成田篤彦

▶チュウシヤクシギ チドリ目シギ科

千葉県指定一般保護生物
体長42cm。上総の広い水田や干潟で4～5月と8～10月頃に見られる旅鳥。カニの脚を落としたり呑み込む

2008年5月19日小櫃川河口干潟 成田篤彦撮影

まで穴にさし込みカニを取り出して
いるのもいた。そしていつの間にか
カニの脚を器用に落とし、呑み込ん
でしまった。チュウシヤクシギのく
ちばしは長いうえに下へ曲がって
いて斜めに掘られたカニの巣穴へさ
し込むのに便利である。見ているとあ
ちこちでカニを挟んでいるチュウシ



©成田篤彦

ヤクシギがいた。彼らはカニを捕る
のが実にうまい。

よく似たくちばしをもつ大型のダ
イシヤクシギやホウロクシギもカニ
を捕るのが上手だという。ちなみに
ダイシヤクシギのくちばしの先端は
鋭敏で食物となる無脊椎動物の動き
がよくわかる。泥の表面から餌をつ
まみあげることもあるが、そのなか
には軟体動物や虫、また、内陸では
漿果（しょうか・液汁の多い果実）
まで含まれている（クリストファー・
M・ペリンス監修1996世界鳥類
事典 同朋舎出版）という。

また、5月の田植えが終了した後
の広々とした水田にチュウシヤクシ
ギの10数羽の群れがしばしば見ら
れる。昨年は少し伸びたイネの間で長

いくちばしをさし込みミミズのよう
なものを引き出したり、畦道で餌を
ついでんだりしていた。また、舗装
された農道を大腿で歩いているのを
見ることもある。

さて、千葉県では彼らは春季4～
5月、秋季は8～10月に通過する。
しかし、その数は圧倒的に春季が多
い。かつて、北総の谷
津干潟で約500羽、
飯岡町飯岡海岸では約
3500羽などの記録
がある。しかし、近年、
東京湾などにやってくる
数が著しく減ったの
で、新たに一般保護動
物に指定された（20
06年千葉県レッドリ
スト）。チュウシヤク
シギが渡来するころは
不思議と他の鳥が目立
たない。上総の広い水
田や干潟も彼らがいて
はじめて絵のように見
栄えのする風景になる。
チュウシヤクシギが
訪れる上総の自然もい
いものである。

▲飛ぶチュウシヤクシギ

編隊を組んで飛ぶこともある。飛ぶと腰が白っぽく見える
＝2010年5月13日小櫃川河口干潟 成田篤彦撮影



©成田篤彦

▲水田でえさを捕るチュウシヤクシギ

昆虫などを捕る＝2009年5月4日袖ヶ浦市飯富 成田篤彦撮影

参考文献

千葉県の自然誌本編7
2000年発行